

“天気” 投稿規定

「天気」は日本気象学会の機関誌で、年12回発行され、気象に関係のある、(1)論文、(2)要報、(3)討論、(4)総合報告、(5)解説、(6)写真、(7)学会記事、(8)会員消息、(9)意見、その他を自由に投稿できますから、ふるって御投稿下さい。

御投稿の時は、次の点に御注意下さい。

1. 送り先は、東京都千代田区大手町1の7、日本気象学会、天気編集委員、奥田稔宛、のこと。天気編集委員が受理した日をもって、論文受理日とします。
2. 原稿は、400字詰めまたは500字詰め原稿用紙に和文で横書きにし、長さは400字詰め原稿用紙で、30枚を越えないようにして下さい。これを越えると、適当な代価を請求することがあります。
3. 論文の始めには、題名、著者名(ふりがな)、所属機関名を明記して下さい。
4. 400字以内の要旨を附記して下さい。
5. 図表の数はできる限り少くし、図は黒で縮尺を考慮してせん明にトレースして下さい。
6. 数式は行をあけて明瞭に書いて下さい。
7. 引用文献は論文末につけ、次の例にしたがって書いて下さい。

藤原咲平, 1950: 気象光学進歩の概観, 気象集誌

Ⅰ, 28, 55~68.

Arnason, G, 1953: A Baroclinic Model of the Atmosphere applicable to the Problem of Numeical Forecasting in Three Dimensions,

Ⅱ, Tellus, 5, 386~420.

「天気」の編集は天気編集委員会で行い、事情によっては、論文の加筆、削除等を著者に請求することがあり、内容によっては、印刷しないことがあります。また、印刷の順序は受理日順としますが、編集の都合によって、必ずしもその通りに行かないことがありますから、御了承下さい。

会員は論文、要報、総合報告、解説の別刷を50部まで無料で請求することができます。それ以上の部数が御入用の時は、実費で御渡します。学会記事、会員消息、写真、その他に対しては別刷を出しませんが、場合によっては実費でおわかちします。非会員の方が投稿された場合には、印刷代および別刷の実費をいただくことがあります。

「天気」編集委員はつぎの通りです。

編集理事	有住直介
編集主任	蔵重一彦
編集幹事	奥田稔
	荒井隆夫
	小林寿太郎
	吉野正敏
	小堀磐雄
	長尾隆

編集部だより

1. 雲鏡の原稿募集

今までも評判のよかった雲鏡欄を開放し、全会員からの投稿によって、全会員の自由な声の交流を行うことを念願としております。堅苦しく考えないで、思ったことをそのまま投稿して下さいように希望します。誌上匿名で結構です。ただし、字数は580字から600字までの間に御趣旨を集約して下さい。

2. 地方だよりの原稿募集

あるいは孤島で、あるいは都市の中で、気象観測やその地方特有の災害対策のために従事し、調査研究を片手間に行っている会員。また、その大学でなければならぬような設備あるいは環境にあって特殊なテーマを追求している会員の環境を、地方だよりとして投稿して下さい。写真2、3葉添付し、原稿用紙で2、3枚程度の長さでお願いします。

3. 写真原稿募集

珍しい気象現象があった場合には、できれば、その写真も添えて、機を逸せず、なるべく早く投稿して下さいようにお願いします。

4. 天気の編集について、注文なり、御意見がおりと

思いますが、編集部宛ともしし卒直にお寄せ下さい。

5. 気象学の連続講座を御希望しますか

編集部として、いろいろ計画していることもありますが、会員諸兄の編集に対する注文によって実行に移したいと考えております。現在考慮中のものとしては、気象学の連続講座の設置があります。だが、気象学の講座といっても、非常に広い範囲にわたるので、まず何から取りあげるかが問題となります。講座を始めるとして、気象学の何から始めたらよいか、どの程度(例えば入門書のか、専門的にか)の内容を持った講座にするか、会員諸兄の御意見を編集部までお寄せ下さい。

6. 研究、調査上の御質問をお寄せ下さい。

地方である問題を研究あるいは調査しているときに、取扱い方がわからなくなってしまった場合とか、疑問の点があった場合には、どしどし編集部に関わり合わせて下さい。編集部は喜んで質問に応じ、各専門家の意見に徴して回答致します。

7. 誌上討論を歓迎します。

研究上のアイデア、あるいは疑問点について、誌上討論を展開する意味で、問題を提起して下さいことを歓迎します。